



防災通信



加入世帯
回覧

2026年4月号
和合町自主防災隊

「自助」「共助」「公助」

防災の3原則

- 「自助」…自分のことは自分で守る
- 「共助」…みんなで助け合う(自主防災隊・自治会)
- 「公助」…税金を使って行政が守る



「公助」はすぐには動かない

1. 国、県、市の体制が整い、支援が始まるまでには、時間がかかります
2. 避難所は、その場所(体育館等)の安全確認が出来て初めて開設となります
3. 避難所への支援には、避難者の人数等の確認・報告により、そのニーズの把握が必要とされています。よって、すぐに物資は届かないものと考えた方がよいでしょう
4. 災害が大きければ大きいほど、公的な支援、援助が届くのに時間がかかります
5. 広域災害では被災者も多く、平時とは違い、救助が来るかどうかは確かではありません

自主防災隊という組織と防災倉庫(「共助」の脆弱性)

1. 自主防災隊の組織は、持ち回りの班員で活動しますが、役割に責任が発生する訳ではありません。災害時に実際に機能するかは保証できません。
2. 自主防災隊の各部の倉庫には、いざという時に使うものとしての資機材が入れています。しかし、その使い方を理解している人は何人いるのでしょうか。誰がどうやって使うのか。実際に使うことができるのでしょうか？
3. 自主防災隊の食料備蓄、水は、全員に配布できる量はありません。各部の防災倉庫にある食料等は、災害発生時に自宅が壊れて持ち出せない人を対象に準備されたものです。従って少なくとも3日分程度の食料、水等は、各家庭での準備が必要です。

普段からやっておくこと(「共助」がうまく働くために)

自分の命が守れたら、次はみんなで助け合う。これが共助です。

自主防災隊は共助のための組織です。

ご近所同士で、声をかけ合い、助け合う。脆弱な組織であっても、何とか自分たちでやらないと、誰も助けには来てくれません。防災倉庫の資機材を使い、自分達で何とかする。それが実際に、災害が起こった時の、あるべき行動です。

まずは自分で何とかすること。自宅避難ができるように家具の固定、備蓄の準備をしておきましょう。そして、ご近所さんとは、顔見知りになっておきましょう。